

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.12) 平成24年度:53～56.

患者急変場面を経験した新人看護師の学びと教育的関わりの検討
～リフレクションを通して～

小山内美智子・大戸裕美絵

患者急変場面を経験した新人看護師の学びと教育的関わりの検討 ～リフレクションを通して～

旭川医科大学病院 9階西ナーステーション
○小山内美智子・大戸裕美絵

【目的】

患者急変場面を経験した新人看護師の学びを明らかにし学びを深めるための教育的関わりを見出す

【方法】

研究デザイン：質的研究

対象者：A病棟に勤務する患者急変場面（以下急変場面）を経験した新人看護師（以下新人）3名

データ収集・分析方法：新人3名で「急変場面の行動や思い」についてディスカッションし、ファシリテーターによりリフレクションの枠組みで新人が気づきを得られるようサポートする。話し合い内容は記録し逐語録を作成。逐語録から学びの語り箇所を抽出し、意味・類似性に従い一文一意味をコード・カテゴリー化する。研究者2名で分析し妥当性確保に努める。

【倫理的配慮】

対象者に、研究目的、方法、個人情報の保護、回答の任意性、同意の撤回、データ管理、結果の公表等を口頭で説明同意を得た。

【結果】

急変場面における新人の学びとして7個のカテゴリーと24個のサブカテゴリーが抽出された。カテゴリーは1、先輩の具体的なアドバイスや動きから学ぶ 2、経験した事により望ましい行動に気づく 3、チームで動く重要性を認識する 4、自己学習の重要性と限界を認識する 5、看護師としての価値を実感しモチベーションにつなげる 6、自分の経験不足を客観的に評価する 7、自己の感情をコントロールして対応する必要性を自覚する

【考察】

ベナーは「初心者および新人ナースたちはその状況をつかむことがほとんどできない」¹⁾と述べており、急変場面を経験しても新人一人では効果的な振り返りはできない。そこで、今回リフレクションを通し振り返りを行い、新人の学びを明らかにし、教育的な関わりの方向性を見出すことができた。

急変場面が夜間帯に多く先輩は蘇生を優先し新人の指導に十分時間はとれない。その中でも先輩は新人の行動を肯定した言葉かけはしており、新人は「自分の行動は正しかった」と実感していた。「先輩の具体的なアドバイスや動きから学ぶ」にあるように新人は更にアドバイスを求めていた。今回急変場面後、一か月から半年経過していたが鮮明に場面記述できていた。急変場面後では焦りと怖さでコーピングが不十分で、先輩も身体的・精神的な疲労で教育的に関わることは困難と予測される。そのため急変場面直後ではなく、後日振り返りの場を設ける事が有効と考える。そこで学びが深まり自己の課題を見出し、仕事を続けていく上でのモチベーションにまで昇華することができていた。

また同時に新人支援をする先輩の行動を承認することも重要である。

【結論】

1. 急変場面を経験した新人の学びとして7つのカテゴリーが抽出された
2. 急変場面を経験した新人への教育的関わりとしては、後日振り返りの場を設け学びを深められるよう環境を整える事が重要

【引用・参考文献】

1) パトリシア・ベナー 井部俊子・井村真澄・上泉和子訳：ベナー看護論達人ナースの卓越性とパワー、医学書院、18、2000

患者急変場面を経験した新人看護師の
学びと教育的関わりの検討
～リフレクションを通して～

旭川医科大学病院
小山内美智子・大戸裕美絵

はじめに

岡田「命にかかわる出来事に直面する怖さ」
2年目看護師「新人の時の急変場面を今でも夢に見る」
「夜勤は緊張して眠れない」



患者急変場面に新人看護師も対応



急変対応直後に十分な振り返りを行うことは困難



急変場面对応後の教育的な振り返りが必要

【目的】

患者急変場面を経験した新人看護師の学びを
明らかにし学びを深めるための教育的関わりを見出す

【言葉の定義】

患者急変：患者の病状が急に変化し救命処置
(心臓マッサージ・挿管等の実施)が必要
な状況のこと

【方法】

1. 研究デザイン: 質的研究
2. 対象者: A病棟に勤務する患者急変場面を経験した新人(新卒)看護師3名
3. データ収集・分析方法: 新人3名で「急変場面の行動や思い」についてディスカッションし、ファシリテーターによりリフレクションの枠組みで新人が気づきを得られるようサポートする。話し合い内容は記録し逐語録を作成。逐語録から学びの語り箇所を抽出し、意味・類似性に従い一文一意味をコード・カテゴリー化する。研究者2名で分析し妥当性確保に努める。

リフレクションの意義と目的

1. 学習ニーズを明確にしていく
 2. 人としての個人的成長につながる
 3. 専門職としての成長につながる
 4. 慣習的行為から脱却する
 5. 自分自身の行動の結果に気づく
 6. 観察に基づく判断から理論を構築していくことができる
 7. 不確実性の多い事柄を解決に導く
 8. 自己のエンパワーメントができる
- (田村由美 P041) 正確に出展元

【倫理的配慮】

対象者に、研究目的、方法、個人情報保護、
回答の任意性、同意の撤回、データ管理、結果
の公表等を口頭で説明同意を得た。
また所属の看護部長より承認を得た。

【結果】

1、急変場面経験の背景

経験回数：2名は2回、1名は1回

経験時期と時間帯

1名：7月（深夜帯）、翌3月（深夜帯）

1名：翌3月（深夜帯）、4月（深夜帯）

1名：12月（深夜帯）

勤務帯：全員夜勤帯

急変の状況：全患者が挿管、人工呼吸器装着に至る

急変場面の記述：起こった出来事、行われた処置、

先輩看護師名など記述あり

急変場面における新人の学びとしてリフレクションを通して、149コード、24サブカテゴリー、7カテゴリーが導き出された。

カテゴリー

- 1、先輩の具体的なアドバイスや動きから学ぶ
- 2、経験した事により望ましい行動に気づく
- 3、チームで動く重要性を認識する
- 4、自己学習の重要性と限界を認識する
- 5、看護師としての価値を実感しモチベーションにつなげる
- 6、自分の経験不足を客観的に評価する
- 7、自己の感情をコントロールして対応する必要性を自覚する

1) カテゴリー・サブカテゴリー・主なコード

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
1、先輩の具体的なアドバイスや動きから学ぶ	<ul style="list-style-type: none">①先輩のアドバイスから学ぶ②先輩の動きを見て学ぶ③先輩からの具体的なアドバイスを求める④先輩から肯定的評価を得る	<ul style="list-style-type: none">○(アドバイスをもらって)次はそうしたらいいと思った○先輩の動きを見てこうしなきゃいけないと(思った)○自分のこと覚えていないが先輩の動きは覚えている 挿管物品間違えなかったよね、と(言われた)○頑張ったね、記録できたねと(言われて)間違いじゃなかった(と思った)
2、経験した事により望ましい行動に気づく	<ul style="list-style-type: none">①体験した事から望ましい行動に気づく②シミュレーションから望ましい行動に気づく③急変状況をアセスメントする必要性に気づく	<ul style="list-style-type: none">○実際に経験したらイメトレで気付かなかった部分に気付いた○それ(学習会の時何も言えなかったこと)があつて「何かしますか」と言えた○アセスメントがあると自分の中で心の準備があつたのではないか

2) カテゴリー・サブカテゴリー・主なコード

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
3、チームで動く重要性を認識する	<ul style="list-style-type: none"> ①コミュニケーションの重要性認識する ②情報を共有する事の重要性認識する 	<ul style="list-style-type: none"> ○急変のとき、コミュニケーションをとることが大事だなと思った ○(ステーションでの)やりとり大事だなと思った ○自分の役割を明確に、もっと意思表示していかないと円滑にいかない
4、自己学習の重要性と限界を認識する	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の行動を具体的に振り返ることの困難さ ②勤務後の疲労感のみが印象的である ③自己で学ぶ ④自己の課題を明確にする 	<ul style="list-style-type: none"> ○細かいところは覚えていない ○すごい疲れたのを覚えている ○自宅でアセスメントを考えた ○自分からレスピを持ってくると言えば良かったと自分で反省(した) ○もっと積極的に入るべきだった
5、看護師としての価値を実感しモチベーションにつなげる	<ul style="list-style-type: none"> ①患者の回復に看護師としての意義を見出す ②次に活かそうと思う気持ち ③患者を救いたいと願う気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ○元気に退院した姿見て良かった。また頑張ろうという気持ちになった ○落ち込みより次こうしたいという気持ちの方が大きい ○助けたいという思いで、できることはやった

3) カテゴリー・サブカテゴリー・主なコード

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
<p>6、自分の経験不足を客観的に評価する</p>	<p>①自分の対処が悪影響となるのではないかという不安 ②夜勤に対する怖さを自覚 ③先輩に頼る気持ち ④自己を否定的に評価</p>	<p>○患者に影響が出ると思い「外回りをする」と言った ○急変に限らず夜勤は怖い ○先輩が何かしてくれると、患者の元で待っていた ○できない事ばかり、ネガティブな気持ち</p>
<p>7、自己の感情をコントロールして対応する必要性を自覚する</p>	<p>①できることはしたと自己を肯定的に捉える ②急変に直面した焦りと怖さを実感する ③自己の感情をコントロールするために、コーピング行動をとる ④感情表出をおさえながら処置にあたる</p>	<p>○慌てずに、シリンジポンプを準備できた ○そこで見守っててと言われ、怖いしどうしよう(と思った) ○同じ看護師同士、話を分かってくれる人に話すと気持ちが楽になった ○感情を出さないようにしなきゃ、焦っている気持ちを抑えなきゃ、じゃないと自分は動けない(と思った)</p>

考察

ベナー 「初心者および新人ナースたちはその状況をつかむことがほとんどできない」

患者急変場面を経験

新人一人では効果的な振り返りはできない

リフレクションを通じた
急変場面の振り返り

急変場面を振り返り、新人の学びを明らかにする
⇒教育的な関わりの方角性を見出す

急変場面は夜間帯に多い

先輩

新人

蘇生を優先し新人の指導に
十分時間はとれない
身体的・精神的疲労

新人の行動を肯定した
言葉かけはしていた

急変場面直後では
焦りと怖さで
コーピングが不十分

「自分の行動は正しかった」
と自己を肯定

しかし、新人はさらなる具体的なアドバイスを求めている

時間をあけて後日振り返りの場を設ける

時間が経過しても鮮明に場面記述できていた

自己の感情をコントロールするために、コーピング行動
をとることができていた



振り返りを行うことにより

学びが深まり、
自己の課題を見出し、
仕事を続けていく上でのモチベーションにまで昇華

【結論】

1. 急変場面を経験した新人の学びとして7つの
カテゴリーが抽出された
2. 急変場面を経験した新人への教育的関わり
としては、後日振り返りの場を設け学びを深
められるよう環境を整える事が重要